

他県の事例

留萌振興局産業振興部水産課

他県の事例 1

○プロジェクト名称

・岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

○特徴

・県、国の補助（大規模増殖場造成事業）により、岩盤を掘削増殖溝を人工的に造成
増殖溝の底にはコンクリートブロックが敷設
・増殖溝を利用した藻場の創出・保全

○取組の中心

・洋野町、種市・洋野・小子内浜漁業協同組合、
漁業関係者、地元小学校

○支援者

・住友商事、住友商事東北
Insight Edgeおよびナイルワークス

○取組内容

・増殖溝の浚渫（管理）
・稚ウニの放流、ウニの移植
・ツブ貝やヒトデ等の植食生物の駆除（磯掃除）
・川の上流域にコナラやクリの苗木を植樹

●アマモ・スガモ場及びワカメ・コンブ場でクレジットを取得

～Jブルークレジット クレジット管理簿より～

○実施者

洋野町、種市漁業協同組合、洋野町漁業協同組合、小子内浜漁業協同組合

○認定クレジット量

3,106.5 t-CO₂（2017～2021）

○クレジット当初保有者

岩手県洋野町

1

岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動



プロジェクトの概要：

洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約1.6万人の町。三陸地方に見られるようなリアス式海岸と異なり、湾入部がない南北の海岸線約20kmに沿って、断続的に平坦な岩盤（種市層）が平均150m沖まで張り出しています。洋野町では、約50年前から、岩盤に溝を掘り、ウニやアワビ漁に利用してきました。それが増殖溝です。



磯掃除（ツブ貝の駆除）



ウニの森づくり 植樹祭

プロジェクトの特徴・PRポイント：

増殖溝178本の総距離は17.5km、幅は約4m、深さは約1mにわたり、干潮時でも波力により新鮮な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥に耐え、生育しやすい環境を創り出しています。増殖溝やその周辺で育った海藻は、潮の干満により流れ藻として海に流出し、CO₂を海底に固定することに貢献してきました。また、増殖溝によって、身入りの良い高品質なキタムラサキウニが豊富に採れるようになり、ウニ漁と藻場の保全、即ち気候変動対策を両立させる持続可能な漁業が受け継がれてきました。今回のクレジット販売により得られた資金は、洋野町ブルーカーボン増殖協議会が中心となり、気候変動対策の更なる発展のために活用していきます。



増殖溝 遠景



洋野町ブルーカーボン増殖協議会

2

他県の事例2

○プロジェクト名称

- ・葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動

○特徴

- ・藻場再生・海藻養殖事業でのクレジット認可

○取組の中心

- ・葉山町漁業協同組合、漁業者、地元小学校、地元ダイバーショップ、鹿島建設(株)

○取組内容

- ・藻場再生の研究開発、ウニの駆除、海藻類のスポアバックの設置、陸上生産した種苗の設置
- ・学校での教育啓発、駆除したウニの堆肥化、海域沿岸での藻場モニタリングの実施

○ワカメ養殖での取組

- ・水温モニタリングにより種苗導入時期をコントロール
- ・フリー配偶体技術を用いた地元産ワカメの養殖
- ・ワカメオーナー制度、啓発本の作製、地域ブランド化活動

●天然ワカメ場/カジメ・アラメ場/養殖ワカメでクレジットを取得

～Jブルークレジット クレジット管理簿より～

○実施者

葉山町漁業協同組合、葉山町立一色小学校、ダイビングショップナナ、鹿島建設株式会社

○認定クレジット量

46.6 t-CO₂ (2021～2022)

○クレジット当初保有者

葉山町漁業協同組合

3

葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動 葉山アマモ協議会

(葉山町漁業協同組合・葉山町立一色小学校・ダイビングショップナナ・鹿島建設(株))

プロジェクトの概要

葉山海域では、ここ数年間で藻場の衰退が急速に進行しました。葉山アマモ協議会では、地域連携による積極的な藻場再生活動を通じ、教育、地域経済、脱炭素へつながる循環的な取り組みを実践しています。

対象

ワカメ場、カジメ場、海藻養殖

計46.6 t-CO₂/年

特徴・アピールポイント

ブルーカーボン創出による地域循環効果

- ✓ 海藻を殖やす新技術を導入しています！
- ✓ 養殖による新たなブルーカーボンの創出！
- ✓ 学校を核とした教育活動への展開！
- ✓ 朝市など経済効果も生み出します！



ブルーカーボン創出による循環効果

4